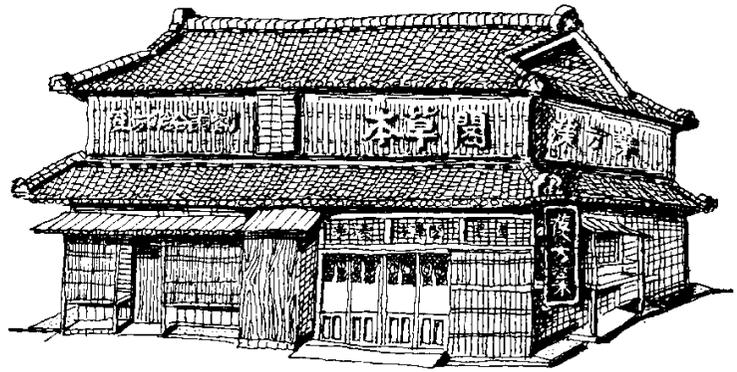


本草閣 かわら版

第 79 号

平成 17 年 3 月 15 日発行



漢方の本草閣 本店
〒460-0012
名古屋市中区千代田5-21-17
(JR 鶴舞駅西)
JR 中央線・地下鉄 鶴舞駅下車
TEL 052-241-3388
FAX 052-241-3443

<http://www.honsoukaku.co.jp/>
E-mail: kanpou@honsoukaku.co.jp

漢方の本草閣 緑店
〒458-0016
名古屋市緑区上旭1-622
(滝の水公園西)
名鉄バス滝の水口下車 徒歩約5分
TEL 052-899-0221
FAX 052-899-0236

<http://www.honsoukaku.co.jp/>
E-mail: midori@honsoukaku.co.jp

民間薬よもやま話

第 26 回 牛蒡子 ; キク科

ゴボウはキク科の越年草でユーラシア大陸に広く分布し、日本へは中国から薬用として入ってきたといわれています。よく知られているように根を食べるのは日本だけで、ヨーロッパでは葉をサラダにするそうです。根は、センイのよさが見なおされている昨今では、もうこれ自体食べる薬みたいなものです。

漢方薬としては、種子の牛蒡子（悪実）を使います。悪実（アクジツ）とはすごい名前ですが、トゲトゲのついた格好の悪い実からきたらしく、ちなみに牛蒡の花言葉は「私にさわらないで」だそうです。この成熟種子を乾燥したものは解熱、解毒などに作用があり、風邪くすりや皮膚科のくすりなど多くの漢方処方にはいっています。

「春の薬草を見つけましょう会」開催のお知らせ

日時 平成 17 年 5 月 24 日 (火)

行き先地 未定

募集人数 バス 1 台分

*詳しくは 次回 4 月の「かわら版」にて。

★

日時 平成 17 年 5 月 3 日 (祝) 13:00~14:00
場所 和漢・漢方の本草閣 北となり鍼灸院跡
テーマ 抹茶を飲みながらワイワイ話そう！
会費 ¥500 定員 20名

電話 052-241-3388 FAX052-241-3443 まで申し込み下さい。
定員になり次第締切

★第 2 回 「食こそ薬」

色々な野菜・果物を思い出してください。

春には土筆・菜の花など、夏には西瓜・胡瓜など、秋には柿・石榴など、冬には大根・人参など、また温かい所で出来る果実(バナナ・パイナップルなど)、寒い時期・寒い所でできる野菜果実(馬鈴薯・林檎など)があります。

春には春の人の身体に必要な自然の恵みを与え、夏には夏の・・・秋には秋の・・・

冬には冬の・・・を、暑い時(地域)には身体を冷やす食べ物、寒い時(地域)

には身体を温める食べ物と自然の恵みは我々の身体に必要なものを用意してくれています。

実のものは冷やし根のものは温める、南で出来るものは冷やし北で出来るものは温める、生は冷やし火を通すと温める。

自然的に考えれば、自分が住むところから一里二里範囲に出来るものを四季に応じて摂られるがより身体にいいこととなります。

「和薬(わやく)」

和薬・・・和とは「日本」の薬という意味です。

日本の古来から生えてきた色々な草等を我々の先人が薬として病を癒すのに脈々と使用し続けてきた薬草のことです・・・現の証拠・千振・毒だみ・・・等

この今まで無かった奇病・難病が報じられる医療業界・食の安全性が心配されるこの時期に「日本の本物に返れ」を旗印に本当の「和薬」をこの「かわら版」に一つずつ次回より紹介させていただきます。

(参考) 漢方・・・漢は今から 1800 年程度前の中国の国の名前です、その当時に使用されていた処方(薬)に関する色々な本が編纂されたことにより漢方薬と言われる様になった・・・葛根湯・小柴胡湯・五苓散・・・

〔文責 林 譽史朗〕

「本草閣かわら版」編集部 編集責任者 矢吹 圭宏